

医・薬・農を緊密連携

渡辺 均
日本健康・栄養食品協会 理事 長
植物機能性食品 推進機構 理事 長

に用いられる薬用植物など、ほとんど栽培化されていない植物も含まれています。これらの植物のニーズの掘り起こしと栽培化を進めることで、新たな地域の農作物として確立させるとともに、人々の健康を担う植物としての新たな価値尺度を創りたいと考えています。個人はもとより地域社会における「健康」をキーワードとした次代の農業のあり方、植物との新たな関わり方などについても模索をしています。



日本健康・栄養食品協会 理事 長 矢島 鉄也

3ステップで底上げ

再評価、生産性の向上につながる技術開発を進め、現在、全国約30カ所で、意欲ある生産者や団体の皆さまの協力の下で栽培を進め、成果が上がっておりま

す。また、民間薬などとしての利用実績や食経験などの歴史的、文化的背景を考慮した各地域での適地適作を推進し、全国同一品種の作付けを回避し、産地間競争をおおることのない新たな農業モデルを夢見ています。

の実現を目指しています。医学、薬学、農学関係者が緊密に連携することで、新たな健康社会のモデルを作り、これが将来の新しい競争力の原資になることを夢見ています。

定保健用食品の活用・普及拡大を図るとともに、申請予定事業者と一体となって新たな疾病リスク低減表示トクホの許可取得を目指します。さらに、今年はこのようなステップアップを合言葉にした取り組みにチャレンジするほか、保健機能食品制度全体の見直しについても、提言ができればと考えております。

許可という成果を挙げましたが、今後は「サルコペニア用食品」規格の提案、誤嚥を防ぐ「えん下困難者用食品」申請促進に取り組んでまいります。新領域の開拓として、「フレイル予防」を推進する医療経済研究・社会保険福祉協会の取組みに、食品の認証制度の専門家として参画してまいります。今後とも皆さま

との連携をさらに深め、当協会は時代要求に合わせた事業展開を図ってまいります。漢方には「天人合一」という言葉があり、自然と人とは一体のものであるとする思想です。人間の体は気候や気圧に影響されます。そうしたことを知るだけでも日常生活で備えができます。この場合、中心にいるのは人ではなく、自然です。人は自然の中で生かされていく存在としてとらえます。自然を支配して豊かさを求める人類の欲求が、持続可能な社会を脅かしているといっても過言ではありません。

健康や生活にプラスに作用するすべての植物を「健康機能性植物」と定義し、その国産化を進めています。その範疇は、従来の農作物の範囲を大きく超え、野山に自生する民間薬

当機構では、人々の健康や生活にプラスに作用するすべての植物を「健康機能性植物」と定義し、その国産化を進めています。その範疇は、従来の農作物の範囲を大きく超え、野山に自生する民間薬

協会では昨年「日健栄協の考える健康食品の体系図」を作成し、会員および関係者の皆さまのご意見も伺いながら、さまざまな議論を進めているところで

す。「日健栄協の考える健康食品の体系図」では、ステップアップで業界全体の底上げを図ることを目指してい

ます。まず、最初のステップアップですが、第三者認証制度の活用を推奨することで、安全性と製品品質の確保を行い、粗悪品を排除しようとするものです。次に第2のステップアップとして、機能性表示食品についての届け出の簡素化、質の向上、特定保健用食品への格上げを目指します。第3のステップアップは、特定保健用食品は制度の発足以来30年を経過し、機能性表示食品とのすみ分け

や、時代の変化への対応などの課題が顕在化しております。そこで、国の健康施策とタイアップするなどして、特

「天人合一」で備えを

「天人合一」で備えを

漢方産業化推進研究会 代表 理事 渡辺 賢治

「健康機能性植物」と定義し、その国産化を進めています。その範疇は、従来の農作物の範囲を大きく超え、野山に自生する民間薬

協会では昨年「日健栄協の考える健康食品の体系図」を作成し、会員および関係者の皆さまのご意見も伺いながら、さまざまな議論を進めているところで

す。「日健栄協の考える健康食品の体系図」では、ステップアップで業界全体の底上げを図ることを目指してい

漢方産業化推進研究会は、漢方の6次産業化を通してこの国を元気にすることを目標とした一般社団法人です。「漢方」というと

今年壬寅（みずのえとら）年、「壬」は身近な食材で家庭で即

つくる責任つかう責任」を掲げ、特に主婦や育児中の女性の活躍

より食べることは生きること、私たちは食べ

るかもいれませんが、予想されていますが、

りません。

りません。